

三角ベース利用者の神崎 颯介さんは、長さ15mの大作を制作しました。



大分県立美術館で展示



絵には様々なルールや技法がありますが、ここでは思いのままに制作してもらっています。自由な感性から生み出されるアート作品の数々に、私も大きな刺激を受けています。

大きな大漁旗を作りました。親が漁師なので、青色が好きです。

お神楽が好きなので、色も赤やオレンジが好きです。絵を描くのは楽しいです。



画家・ワークショップ講師
廣岡 茂樹さん
(国見町大熊毛)

秀溪園利用者
清永 雄司さん

秀溪園利用者
長岡 大介さん

自由な感性で

～障がい者アートの世界～

市は、平成30年に施行された「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」を契機に、障がい者アートの支援事業を開始しました。その一環として、障がい者の芸術文化活動の促進を旨とした「アート作品制作ワークショップと展示会」を開催しています。

今年、8月に秀溪園(武蔵町手野)と三角ベース(安岐町下山口)でワークショップを実施しました。障がい者の方々が、自由な感性でアート作品の制作にチャレンジ。作品は10月に大分県立美術館で展示されました。

神崎さんの作品「たまねぎ」